

青森県の10代男女の性に関する悩み・
意見について
—自由記述内容の分析結果から—

高橋 佳子¹⁾ 益田 早苗¹⁾ 佐藤 愛¹⁾
中村由美子¹⁾ 新道 幸恵¹⁾ 玉熊 和子²⁾
長澤 一磨³⁾

1) 青森県立保健大学
2) 秋田福祉大学
3) 青森県総合健診センター

Key Words : ①10代の性 ②性意識 ③性行動

I. はじめに

ここ数年、青森県内における10代の人工妊娠中絶実施率は減少傾向にあるが、全国に比べるとまだまだ高い。そこで、10代の女性の人工妊娠中絶を減少させるための対策を検討するために、10代男女の性に関する調査を行った。今回は、性に関する悩みや意見についての自由記述の内容を中心に分析検討したので、その結果を報告する。

II. 目的

青森県内の10代男女の性に関する調査の自由記述内容をもとに、10代男女の性に関する悩みや意見を把握することを目的とした。

III. 研究方法

1. 対象：青森県内の10代男女
2. 方法：自己記述式質問紙(選択および自由記述式)を青森県内4市の街頭で直接配布し、郵送にて回収した。
3. 期間：平成15年12月28日～平成16年2月15日
4. 内容：性に関する悩みや意見
5. 分析：内容分析の方法を用いて要素を抽出しカテゴリー化を行った。

IV. 結果

1. 回収数:320部(配布数 1,250部)、回収率:25.6%、有効回答率98.1%
2. 分析対象:74人(自由記述質問への回答者)
3. 対象属性:男子15人(20.3%)、女子59人(79.7%)、平均年齢15.7(±2.5)歳
4. 性交経験の有無
あり:32人(43.2%)、なし:42人(56.8%)
5. 性に関する悩みや意見の自由記述内容
自由記述の回答率は全体の23.1%であり、性交経験あり群(以下、あり群)の方が性交経験なし群(なし群)よりも回答率が高かった(あり群:27.6%、なし群:21.2%)。

記述内容から168の要素が抽出され、11のカテゴリーと43のサブカテゴリーが抽出された。カテゴリーとサブカテゴリーは表1に示すとおりであった。カテゴリーは大きく2つの傾向に分けることができた。A群は、性についての悩みや疑問、自分自身の性体験についての内容であり、B群は10代の男女の性事情、性教育やサポートシステムについての意見であった。

内容は以下のような特徴がみられた。(《 》はカテゴリー、〈 〉はサブカテゴリー、『 』は要素を示す)

- 1) 《性についての関心》:〈恋愛・性体験の願望〉として、あり群は『もっと多くの人とやりたい』、なし群は『自分もやってみたいなあって思う』等、セックス願望がみられた。一方で、〈性のことを知らない〉〈性に興味がない〉等の記述があった。
- 2) 《性のことについて知りたい》:〈セックスについて知りたい〉は、なし群にのみみられ、その他、欲求不満・マスターベーション・避妊法・月経・妊娠等についてであった。
- 3) 《性体験について》:あり群が〈性体験後の感情〉を

表1 抽出されたカテゴリーと要素数

カテゴリー (A群)	要素数	カテゴリー (B群)	要素数
性についての関心	25	性についてしっかり考えよう	26
性のことについて知りたい	23	性教育を考えよう	16
性体験について	15	周囲の性事情	14
セックスに伴う悩み	13	サポートシステムを考えよう	12
身体の悩み	8	性同一性障害・同性愛について考えて欲しい	9
人間関係の悩み	7		

記述し、『やっぱりいいもんはいい』や『セックスしても何も楽しくない』等と相反する反応がみられた。

- 4) 《性についてしっかり考えよう》:『自分で責任をきちんととれるようになってからという考えがあってもよい』等、〈性についての望ましい考え方〉や〈避妊の必要性〉〈中絶はいけない〉等の記述があった。
- 5) 《性教育を考えよう》:〈性に関する学校教育の問題点〉についての記述もあり、『若い人が人工妊娠中絶をしないようにもっと講義したり、思春期教室をひらくべきだ』等、〈性に関する教育のあり方〉についての記述があった。
- 6) 《周囲の性事情》:〈セックス経験者が多い〉〈知識が少ない〉等の記述があった。
- 7) 《サポートシステムを考えよう》:相談機関や病院への要望の記述が、性交経験の有無に関わらずあった。

度から行っている研究課題「10代の女性の人工妊娠中絶減少にむけての支援モデルの構築」の一部である。

V. 考察

以上の結果をみると、10代の発達段階に沿った関心事や悩み、性交経験の有無による特有の悩みを抱える若者像が浮き彫りとなった。また、周囲の性事情や性教育の現状なども冷静かつ批判的に受け止め、望ましい性行動についての意見をしっかりもっている者も一定数いることが明らかとなった。一方で、セックスを軽くとらえたり、周囲に影響されてセックスを求めたりする者もあり、10代男女の性に関する関わりの方の更なる検討が必要である。性教育やサポートシステムについては、性交経験の有無に関わらず要望がみられたことから、彼らの抱える悩みに対応し、正しい情報を与えるための性教育やサポートシステムは充分とはいえず、それらの整備が急務であるといえる。今回の結果を、電話相談、ピア・カウンセリング活動、性教育等の内容に反映させていくことが重要である。

VI. 文献

- 1) 新道幸恵:10代の女性の人工妊娠中絶減少にむけての支援モデルの構築、平成15年度厚生労働科学研究費補助金(子ども家庭総合研究事業)総括研究報告書、2004.

(本研究は厚生労働科学研究費の助成を受け、平成15年